

首里城復興レポート Vol.7 (R3年10月～R4年1月版) 沖縄県 特命推進課

首里城がつなぐ 「過去」から「未来」へ...



OKINAWA

よみがえれ！首里城



特命推進課公式Twitter



首里城火災による被害状況（令和元年11月1日時点）

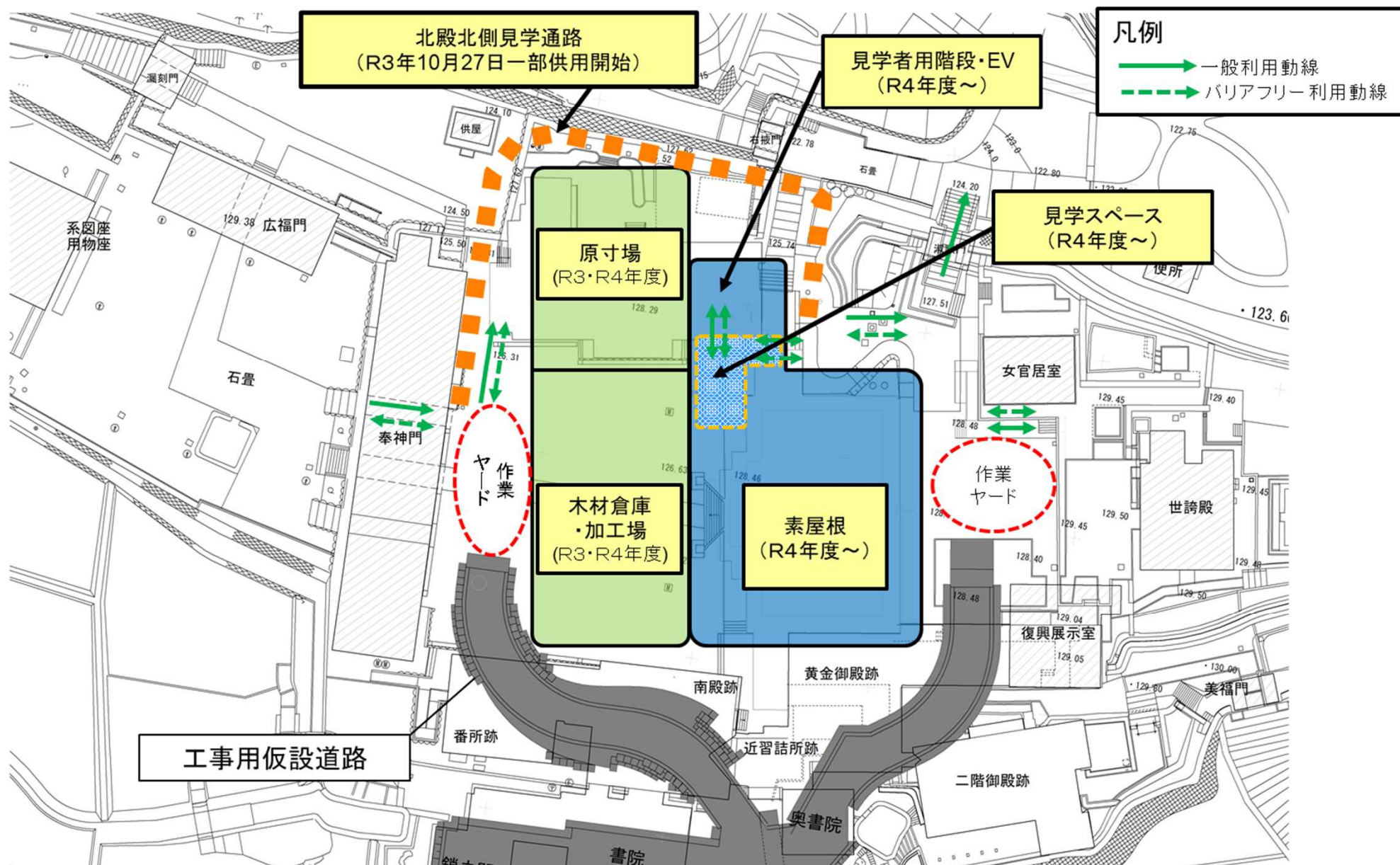


ドローン写真(令和4年1月2日時点)



写真提供: 国営沖縄記念公園(首里城公園)

R3年度以降の木材倉庫等仮設施設の整備について



正殿復元に向けた仮設施設の整備(CGイメージ)



※詳細は現在調整中

北殿北側見学通路の整備について(10月27日供用開始)

今年度から始まる木材倉庫等の仮設施設の整備に先立ち、復元工事の現場を迂回しながら見学できる北殿北側見学通路(仮設デッキ)が令和3年10月27日に供用開始した。本デッキ上では、正殿復元の様子をあしらったグラフィックや今後の正殿復元の工程等の解説、首里の街並みに関する歴史解説、火災の様子を伝える展示等を設置している。



正殿復元の様子をあしらったグラフィック



今後の正殿復元の工程等の解説

正殿の復元工事が始まります Reconstruction work on the Seiden is to start

开始复元正殿工程 正殿的復元工程開工 세이덴의 복원 공사가 시작합니다



2026年の正殿の復元を目指して、2021年から復元工事に必要な木材倉庫・加工場を整備します。2022年からは本體を再建し、いよいよ正殿の復元工事が始まります。正殿復元に伴って変わっていく様子を随時ご紹介します。

Work has been underway since 2021 on building a timber warehouse, and template and processing workshops, which are needed for the reconstruction work. In 2022, a temporary roof will be put in place to cover the Seiden, and reconstruction work will finally begin, with the goal of completion in 2026. Please come and take a look at how the Seiden's reconstruction is coming along.

为保证2026年正殿复元顺利开工,从2021年开始建设施工所需之木材仓库、加工场。自2022年起建设正殿主体,终于开始正殿的复元工程。不定时发布复元正殿过程中发生之变化。

为了到2026年正殿复元顺利开工,自2021年起建设施工所需之木材仓库、加工场。自2022年起建设正殿主体,终于开始正殿的复元工程。不定时发布复元正殿过程中发生之变化。




正殿復元工程の進捗状況 (Progress of the reconstruction work on the Seiden)

正殿復元工程の進捗状況 (Progress of the reconstruction work on the Seiden)

木材を保管する／木材倉庫 Timber warehouse: A place for storing wood

保管木材の場所——木材倉庫 保管木材の場所——木材倉庫 木재를 보관한다/목재 창고



2022年夏頃に整備予定です。 Scheduled to be ready in summer 2022.

正殿の復元では、大小様々な木材を多く使用します。イヌマキ、オキナワウラジロガシ、ヒノキをはじめとした多様な樹種の木材を、適切に乾燥管理しながら、工事で使われるまで保管する場所が「木材倉庫」です。

The reconstruction of the Seiden involves the use of many different types of wood, both large and small. The timber warehouse is where wood from various tree species, including *Podocarpus nagi*, *Podocarpus nagi*, and *Podocarpus nagi*, is stored under proper dry conditions until needed for construction work.

正殿復元工程で使用する木材、其の大小、種類、長さ、幅、厚さなど、様々な木材を、日本産材と海外産材を適切に乾燥管理し保管する場所が「木材倉庫」です。

正殿復元工程で使用する木材、其の大小、種類、長さ、幅、厚さなど、様々な木材を、日本産材と海外産材を適切に乾燥管理し保管する場所が「木材倉庫」です。




木材の搬入 (Loading of wood)

木材の搬入 (Loading of wood)

木材の搬入 (Loading of wood)

現場での展示サイン(上:仮設施設の整備CG、下:木材倉庫)

目 次



1	県・国の動向（2021年7月～2021年9月）	1
2	首里城復元・復興に向けたスケジュール	4
3	寄附金の状況について	5
4	首里城火災復旧・復興支援寄附金の受入終了と新たな基金の創設	6
5	首里城正殿に用いる県産木材の使用変更について	8
6	ご寄附事例の紹介	10
7	首里城赤瓦の漆喰はがしボランティアについて	11
8	首里城破損瓦の利活用事業の紹介	12
9	おきなわ工芸の杜ご紹介	13
10	首里城復興DX共創ラボご紹介	14
11	令和3年度首里城復興イベントご紹介	16
12	令和首里城復興イベント実行委員会の設立	17

I 県・国の動向 (2021年10月～2022年1月)

※関係主体欄の「美」は、(一財)沖縄美ら島財団

年月日		
10月3日	県	首里城再興学術ネットワークシンポジウム2020開催(県立芸術大学・琉球大学との共催)
10月5日	国 県	首里城復元に向けた技術検討委員会 第3回 木材・瓦類ワーキンググループ会議
10月8日	県	首里杜館の大型ディスプレイ、映像コンテンツ公開
10月14日	県	令和3年度 第2回 首里城復旧・復興ワーキンググループ会議
10月21日	国 県	首里城復元に向けた技術検討委員会 第1回 北殿・南殿等ワーキンググループ会議
10月27日	国	首里城御庭の北殿北側見学デッキを一部供用開始
10月28日	国 県	首里城復元に向けた技術検討委員会 第3回 防災ワーキンググループ会議
10月30日～ 11月3日	国 県 美	令和3年度 首里城復興祭(主催:首里城祭実行委員会)
10月30日	県	令和3年度 首里城復興イベント(10月30日・31日・11月3日)
11月1日	県	琉球歴史文化の日 制定記念式典 → 沖縄の歴史・文化への理解を深め、次世代に継承し、新たな歴史と文化の創出に向けて 令和3年度より制定。

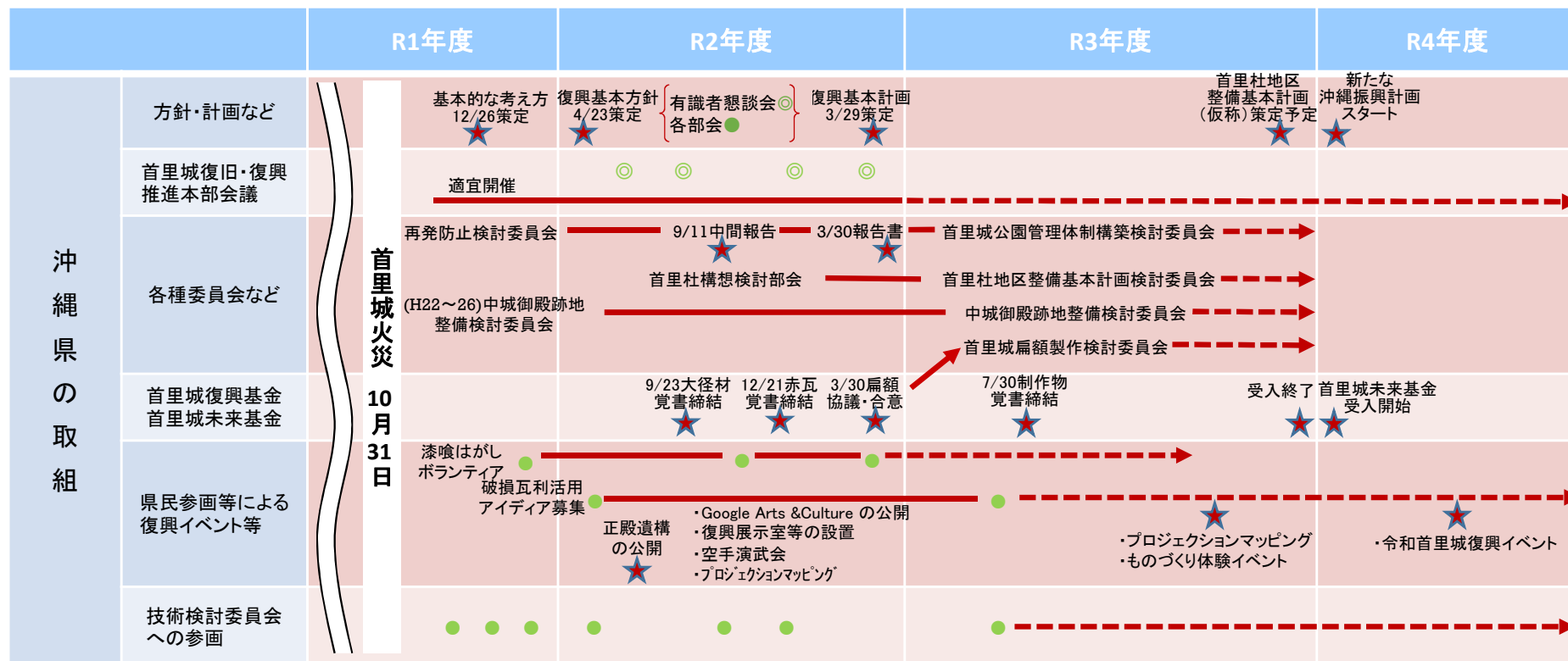
I 県・国の動向 (2021年10月～2022年1月)

年月日		
11月2日	県	令和3年度 第2回 「琉球文化ルネサンス」に関する万国津梁会議
11月3日	国 県	玉城知事が首里城の現場を視察
11月6日～ 11月14日	国 県 美	首里城赤瓦の漆喰はがしボランティア募集(最終)
11月9日	国 県	首里城復元に向けた技術検討委員会 第4回 彩色・彫刻ワーキンググループ会議
11月10日	国 県	令和3年度 第2回 首里城公園管理体制構築検討委員会
11月16日	国 県 美	首里城復興DX共創ラボのオープン(連携協定:SCSK株式会社)
11月22日～ 1月7日	県	首里城火災破損瓦等の利活用アイデア募集(令和3年度2次募集) → 今回から瓦の種類を追加し、石材も利活用募集を開始
12月1日	国 県	令和3年度 第2回 首里城復元に向けた技術検討委員会
12月21日	国 県	令和3年度 第2回 首里城扁額製作検討委員会
12月24日	国 県	令和3年度 第2回 中城御殿跡地整備検討委員会

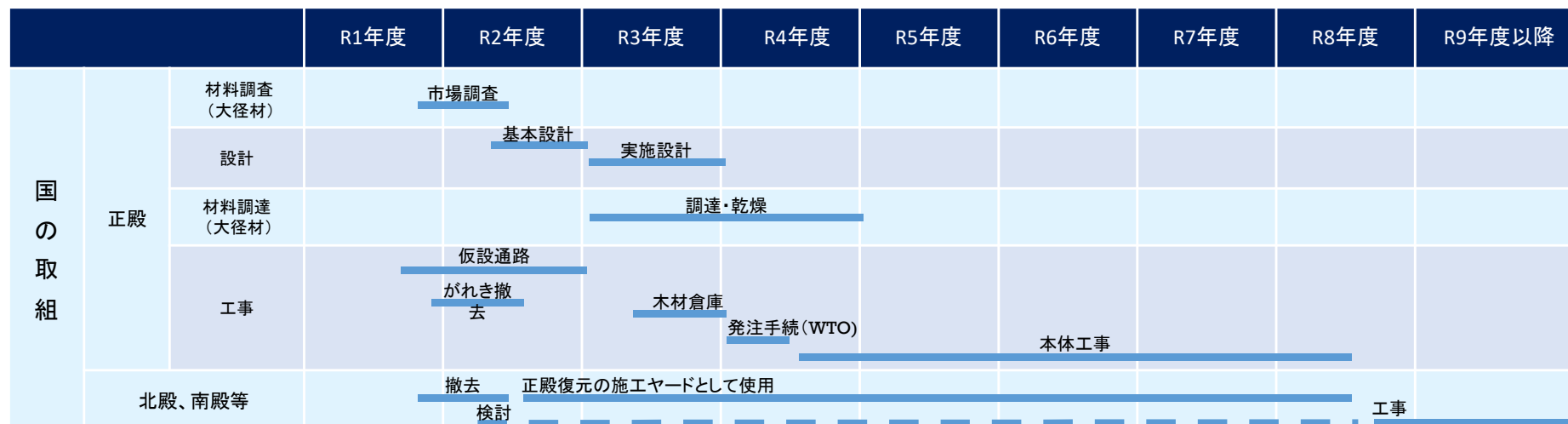
I 県・国の動向 (2021年10月～2022年1月)

年月日		
12月27日	県	令和3年度 第32軍司令部壕保存・公開検討委員会 第4回会合
1月13日	国 県	首里城復元に向けた技術検討委員会 第4回 防災ワーキンググループ会議
1月19日	県	令和3年度 第3回 首里城復旧・復興ワーキンググループ会議
1月24日	県	令和3年度 第3回 「琉球文化ルネサンス」に関する万国津梁会議
1月28日	国 県	首里城復元に向けた技術検討委員会 第4回 木材・瓦類ワーキンググループ会議
1月30日	国	首里城復元に向けた技術検討委員会 報告会
1月31日	県	令和3年度 第3回 首里城復旧・復興推進本部会議 → ①首里城火災復旧・復興支援寄附金の受入終了(R4.3.31)、②首里城復興への新たな基金の創設、③正殿への県産木材の使用変更について決定。
1月31日	国 県	令和3年度 第3回 首里城公園管理体制構築検討委員会

2 首里城復元・復興に向けたスケジュール



※ 国の取組については「首里城正殿等の復元に向けた工程表(2020年3月27日)」より抜粋



3 首里城火災復旧・復興支援寄附金の状況について

沖縄県に寄せられた寄附金受入状況

5,489,849,195円 (令和4年1月末現在)

皆さまからのご寄附は、
「首里城復興基金の活用に関する方針」に基づき、
城郭内の正殿をはじめとした施設等の復元に活用します。
その内容は、「沖縄県公式 首里城復興サイト」等でお知らせします。
寄附金の申込・問い合わせは、
沖縄県 都市公園課ホームページをご覧ください。

沖縄県 都市公園課



☆これまでの復興レポートについては、
「沖縄県公式 首里城復興サイト」をご覧ください。



☆Twitterで首里城復興等に関する情報を発信中！



特命推進課公式Twitter

4 首里城火災復旧・復興支援寄附金の受入終了と新たな基金の創設について

I. 現在の寄附金（首里城火災復旧・復興支援寄附金）へのご寄附について

- 令和4年度からは正殿の復元工事が始まり、首里城復興は一つの節目を迎えることから、令和4年3月31日を以て同寄附金の受入を終了とすることを決定いたしました。
- 火災直後から現在もなお、多くのご支援が沖縄県に寄せられ、復興の歩みを進める大きな力となっています。改めて、多くの皆さまの温かいご支援に心から御礼申し上げます。



II. 現在の寄附金（首里城火災復旧・復興支援寄附金）の活用先

- これまでに、首里城正殿の象徴的な木材、赤瓦、装飾品、彫刻品等の調達・制作費用に充てることが決定されています。（左下図）
- 令和4年3月31日までにお寄せいただいた寄附金は、引き続き「沖縄県首里城復興基金の活用方針」に基づき、北殿・南殿等も含めた城郭内の施設の復元に活用させていただきます。（右下図）



【選定の考え方】

- 寄附者（来訪者）の皆様の目につきやすい「象徴部分」
- 県内に蓄積・継承されている伝統技術の活用に資するよう、県産材または県内職人が関わる箇所



詳細は、「首里城復興サイト」をご覧ください。

https://www.shurijo-fukkou.jp/donation/shurijomirai_fund/

首里城復興サイト



Ⅲ. 新たな寄附金の創設について

- 首里城復興に対しては、現在も多くの皆さまから様々のご提言やご要望をいただいております。
- このため、沖縄県では、首里城への思いを持つ方々との連携・協働の形として令和4年度から新たな寄附金を募るため、令和4年2月議会において以下の基金設置条例案を提案することを決定しました。

1. 基金名称： 沖縄県首里城歴史文化継承基金（愛称：首里城未来基金）

2. 設置目的：

首里城に象徴される沖縄の固有の歴史及び文化の継承を目的として、
県が行う事業の費用の財源に充てるため

3. 活用方法：

- (1) 伝統的な建造物(これと一体として設置される物件を含む)の建造又は修繕に関する専門的な知識又は技術を有する人材の育成

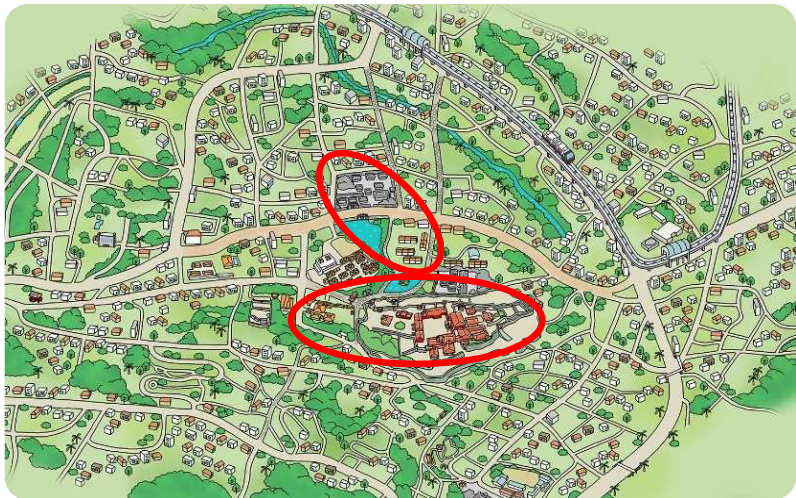
⇒ **伝統的な建築等の技術の人材育成による継承**

※例：宮大工、彫刻等装飾品に係る彫刻師、彩色を施す絵師等の技術者育成



- (2) 歴史的又は文化的に重要な施設の整備その他歴史的風致の維持及び向上
⇒ **古都首里の歴史的空間創出による継承**

※例：中城御殿等の整備、城壁等の修復、新首里杜構想に基づく歴史まちづくりの推進



※歴史的風致とは、「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」を指す

詳細は、「首里城復興サイト」をご覧ください。

https://www.shurijo-fukkou.jp/donation/shurijomirai_fund/

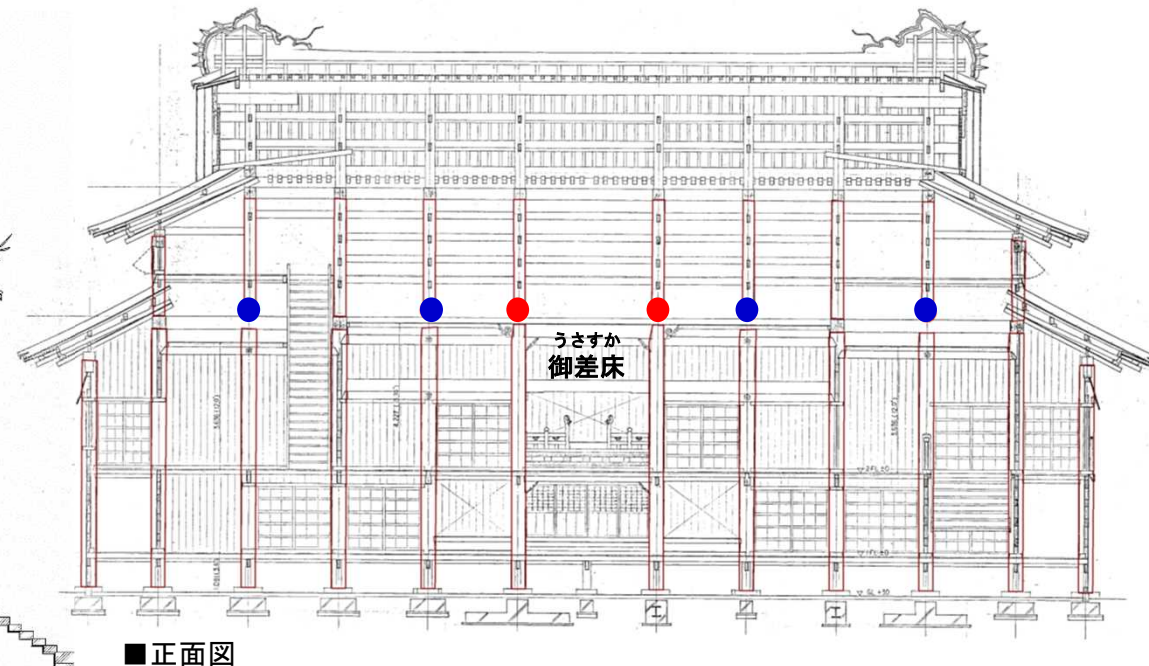
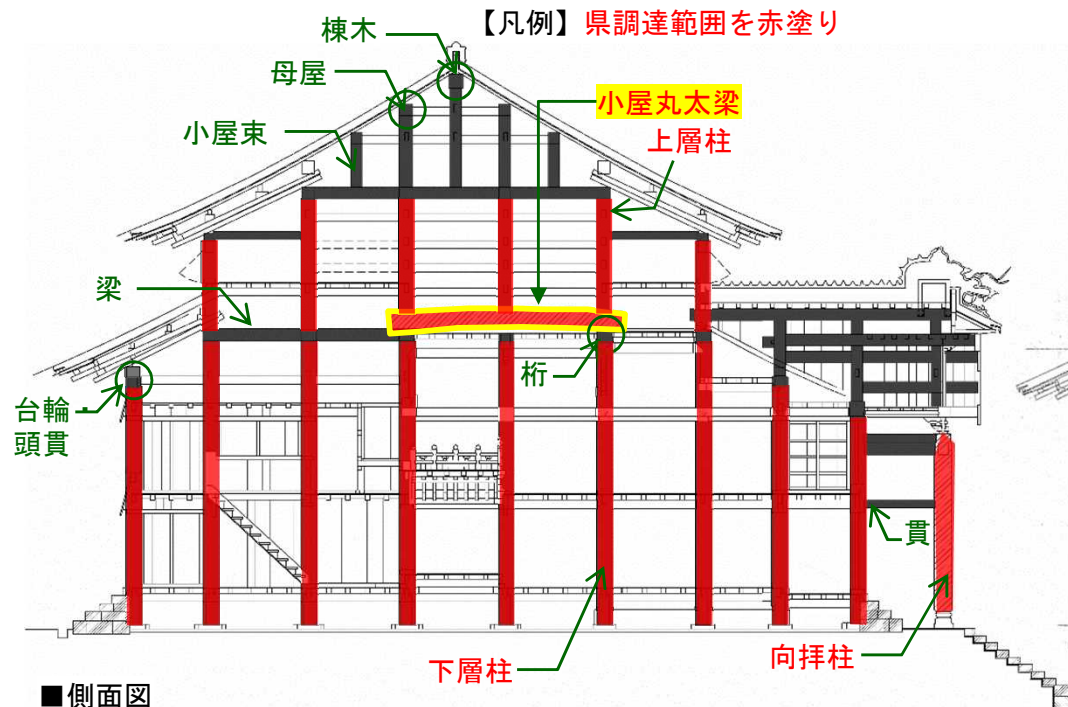
首里城復興サイト



5 首里城正殿に用いる県産木材の使用変更について

I. 正殿の小屋丸太梁材に使用する樹種の変更

- 県が寄付金を活用して調達する正殿の小屋丸太梁材については、県産材のオキナワウラジロガシを6本用いることとしていましたが、令和4年1月31日の「沖縄県首里城復旧・復興推進本部会議」において、象徴的な部位で必要最小限となる御差床両端の2本（右下図の赤枠）と予備材1本の計3本へと変更することを決定いたしました。
- 残りの小屋丸太梁4本（右下図の青塗）は、国産ヒノキへ樹種を変更するよう今後国と協議してまいります。



Ⅱ. 調達における地元との調整経緯（抜粋）

国頭村

- 令和2年3月25日：国頭村議会から首里城復元への県産材活用の意見書を頂く。
- 令和3年3月29日：国頭村から樹木提供の同意を得る。
- 令和3年10月19日：地元の区代表へ説明し、役員会などで確認してもらうなどで、後日了解を得る。

石垣市

- 令和3年4月16日：石垣市から樹木提供の同意を得る。
- 令和3年9月9日：地元区代表3名とのWEB会議で調達概要や経緯を説明。
- 令和3年9月13日：地元区から地元説明会の開催、現地調査の実施等の趣旨の陳情書を頂く。
- 令和3年10月8日：（緊急事態宣言解除後）地元説明会を開催。
- 令和3年12月22日：地元区から苗木ができるまで事業開始せず、イノシシによる食害対策と補償を求める趣旨の陳情書（その2）を頂く。
- 令和4年1月18日：地元区代表3名とのWEB会議にて、地元区の総意として、伐採前に陳情した事項へ対応できないのであれば、承諾できないとの回答を確認。
- 令和4年1月31日：県の令和3年度第3回「首里城復旧・復興推進本部会議」で、石垣市からの調達を行わない旨を決定。

Ⅲ. 県が調達する正殿の構造材（大径材）について

- 決定事項を受け、沖縄県が寄附金を活用し、正殿の構造材として調達する木材は以下のとおりです。

①ヒノキ

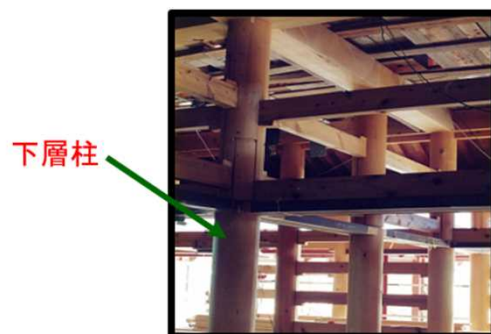
- 柱（下層・上層）用：165本
- 小屋丸太梁用：4本

②イヌマキ

- 向拝柱用：7本（予備材含む）

③オキナワウラジロガシ

- 小屋丸太梁用：3本（予備材含む）



詳細は、「首里城復興サイト」をご覧ください。

<https://www.shurijo-fukkou.jp/topics/1644815840/>

首里城復興サイト



6 ご寄附事例の紹介（首里城火災復旧・復興支援寄附金）

うるま市南原小学校の生徒による取組

第16回平宮護岸アートコンクール（主催：うるま市教育委員会）において、南原小学校の5年生5名が首里城募金に対する感謝の気持ちを表した壁画を描き、最高賞「平宮アート金賞」を受賞。

副賞と小学校での募金を沖縄県へ支援金としてお寄せいただきました。



金城教育長コメント（抜粋）

- この度は、平宮アート金賞のご獲得、誠におめでとうございます。
- 南原小学校五年生の「首里城復活!!!」チームの皆さんは、今回で二連覇を達成され、二年連続で支援金をお寄せいただくことになります。
- 皆さんが制作した作品から、首里城復興に向けて取り組む人への感謝の気持ちと、温かいエールを受け取ることができ、復興を願う全ての人の大きな励みとなっています。
- 以前の荘厳な建物が復元される日を皆さんと一緒に心待ちにしています。温かいご支援誠にありがとうございました。



7 首里城赤瓦の漆喰はがしボランティアについて

主催：沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所、沖縄県、(一財)沖縄美ら島財団

○首里城復興へ取り組む三者では、火災により影響を受けた首里城の赤瓦について、破損瓦等の処理の一環として「漆喰はがし」作業のボランティアを募集しておりました。

○R3年11月6日～11月14日の第四期募集では、参加人数(延べ)444名の皆さまに914枚の瓦処理をご協力いただきました。

○同募集を以て、同作業が必要な瓦の処理は完了いたしました。ご協力いただいた多くの皆様に心から御礼申し上げます。



【第一期～第四期までの実施結果】

- ・総参加人数(延べ)： 4,266名
- ・総処理瓦枚数： 23,962枚



〈漆喰はがしの作業イメージ〉

※作業は、テント内の作業テーブルで行います。

手順①
漆喰が付いている赤瓦を赤瓦ストック場所から、作業場所に持ってくる。

手順②
スクレーパーを用いて、赤瓦に付着している漆喰を剥がす。

手順③
ワイヤーブラシで残っている漆喰を剥がす。

手順④
漆喰を剥がした赤瓦を赤瓦ストック場所に持っていく。

開始

完了



漆喰が付いている

漆喰が付いた赤瓦



スクレーパー

赤瓦の漆喰除去作業①



ワイヤーブラシ

赤瓦の漆喰除去作業②



漆喰が剥がれている

漆喰が剥がれた赤瓦

8 首里城破損瓦の利活用事業の紹介

首里城の焼け残った瓦等（破損瓦等）を首里城の思い出として活用したい、との声が多く寄せられております。沖縄県では、**多くの人が首里城への思いを共有し、形として残していく**ことを目的として、首里城の破損瓦等利活用者を募集しています。

活用事例①（令和3年度 第1回募集）

「瓦でアート・花壇を飾ろう」（沖縄市立 島袋小学校）

- 生徒が破損瓦に絵を描き、作品を校内の花壇に装飾予定。
（装飾作業はコロナによる休校等で延期中）

【生徒の感想】

- 首里城のかわらを初めて見たので驚いた。火事はつらいことだったので、かわらにかく絵は明るい絵にしようと思った。
- みんなが沖縄にぴったりの絵をかいたのでカラフルできれいだった。



令和3年度募集

- 第1回：【終了】令和3年 6月～7月募集、8月配布
- 第2回：【終了】令和3年 11月～翌1月募集、1月配布
（※募集は非営利目的の利活用アイデアに限ります）

活用事例②（令和3年度 第1回募集）

「首里城の瓦を使ってモザイクアートを作る」（山口県和木町 教育委員会）

- こども園の5歳児を対象に、陶芸窯で泡盛のガラス瓶チップを散りばめて焼成したタイル上に赤瓦を並べモザイクアートを作る。
- 出来上がった作品は、山口県和木美術館へ展示した。
- 和木町の隣に岩国町があり、そこにある空港から那覇への直行便が飛んでいるので沖縄に興味を持ってもらえた。



9 おきなわ工芸の杜ご紹介

○ 沖縄の工芸産業の振興のため、人と技術・情報の交流拠点となる「おきなわ工芸の杜」が令和4年3月にオープンします。

○ 同施設には、工芸品への理解を深め、未来へつなげていくための3つの役割があります。



MISSION ①

工芸品に関する情報発信

本県の伝統的工芸品を集めた常設の展示室があり、歴史や作り方について学ぶことができます。一般来訪者だけでなく、工芸従事者向けの専門的な技術研修や講習会も予定しています。当施設を通して多くの人へ情報発信をおこないます。

MISSION ②

工芸品を製造する作り手の支援

施設には工芸の製作や研修に必要な機器等が設置された『共同工房』や、沖縄の工芸素材や図書資料を元にしたデザイン試作等をおこなう開発スペースがあります。そのほか創業間もない作り手のための『貸し工房』など、これからを担う作り手の育成や支援をおこないます。



MISSION ③

作り手と使う人の交流の場

施設内には貸し工房や共同工房などがあり、多くの作り手が製作活動をしています。一般来訪者は製作の様子を見学したり、実際に体験工房で製作をすることができます。見学や体験などを通して作り手と使う人との交流の場をつくります。



沖縄は14～16世紀頃、日本本土・中国さらに東アジア諸国との交易を通じて独特な伝統文化を形成してきました。そのなかで沖縄の工芸は、諸外国の様々な良い面を取り入れた多彩なところが特徴であり、琉球王朝時代から今日に至るまで、県内各地で受け継がれ発展しています。

沖縄県では国指定の伝統的工芸品が16品目あり、全国第3位の品目数となっています。
(平成30年11月7日現在)



工芸産業の振興発展という施設の目的とともに、琉球文化・歴史への関心を高め、首里城復興への思いを込めて、「ひんぷん」と「アプローチ」には首里城の破損瓦が使用されています。

詳細は、「おきなわ工芸の杜ホームページ」をご覧ください。
<https://okinawa-kougeinomori.jp/>

おきなわ工芸の杜



10 首里城復興DX共創ラボご紹介

- 首里城復興におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進するため、沖縄県と「首里城復興におけるDX推進に関する連携協定」を締結したSCSK(株)では「首里城復興DX共創ラボ」を開設しました。
- 同施設においても、デジタル技術を活用した首里城公園及び周辺地域の魅力向上、渋滞・駐車場問題の解消等に取り組んでいく予定です。

首里城復興DX共創ラボ

”見て・知ってもらう”

- ・ 首里城への「思い」を多くの人々が共有し形として残していくことをテーマとした、xR技術を活用した首里城破損材等の展示
- ・ 『見せる復興』に繋がる最新技術による新たな表現をテーマとした、3Dホログラムによる伝統的装飾物・工芸品等の再現や施設案内表示
- ・ 『首里城復興DXで実現する夢ある未来』をテーマとした、大型モニターによる首里城復興DX推進イメージの共有

知財展示ゾーン

シアターゾーン

DX事例ゾーン

ワーケーションエリア

“考えて・行動する”

地域課題の相談、アイデア創出や協働についてのディスカッション、来訪者が一時的に業務を行うためのワークスペース

共創ラウンジ

“考えて・行動する”

共創ワークショップや来客対応を行う特別室

(通称)ResorTechルーム
ResorTechとは沖縄県の情報産業振興政策のキーコンセプトです

資料提供:

SCSK
夢ある未来を、共に創る。

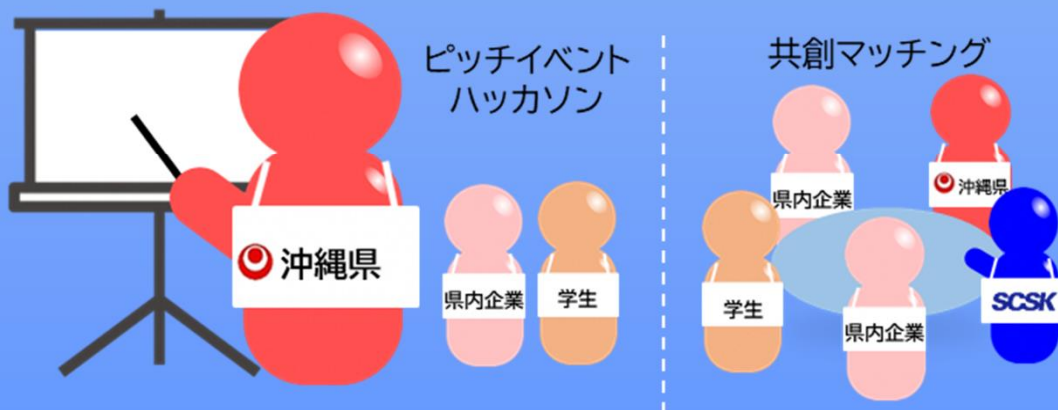
A. 首里城に関するDX推進の活用検討



B. 首里城復興DXの取組事例の紹介



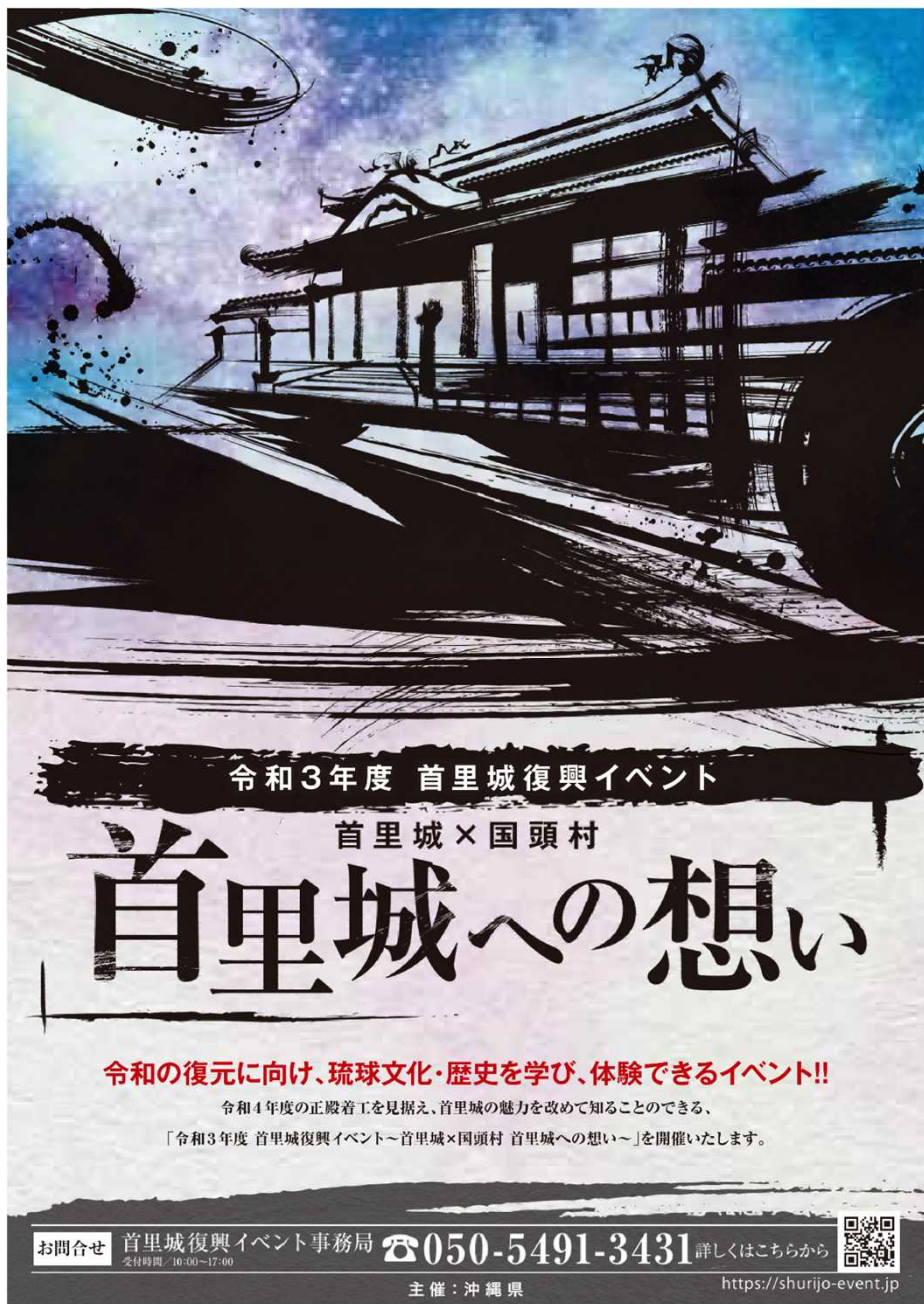
C. 首里城復興に関連するイベントの開催



【首里城復興DX共創ラボ解説の目的】

- 首里城正殿の内装をモチーフとした空間で、首里城復興が目指すべき将来像を共有し、実効性の高いDXの実サービスに発展させる。
- 首里城復興に関わる取り組みを広く発信していくことで、『見える復興』『地域社会への貢献(地域における共創の場づくり)』を実践していく。

II 令和3年度首里城復興イベントご紹介



【令和3年度首里城復興イベント】

- 令和4年度の正殿着工を見据え、首里城の魅力を改めて知り、琉球文化・歴史を学ぶことができる「令和3年度 首里城復興イベント～首里城×国頭村 首里城への想い～」を開催します。

○概要

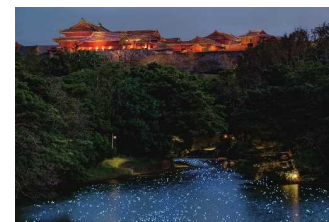
・ものづくり体験イベント

(首里城破損瓦でつくる漆喰シーサーづくり、県産木材を使用したものづくり教室)



・首里城ナイトタイムコンテンツ

(夜の琉球芸能、首里幻想空間「首里天ぬ群星」、「天の川プロジェクト」)



・地域交流イベント

(首里城×国頭村 地域交流イベント 首里の旗頭演舞)



○日程

3/4(金)～6(日)、3/12(土)、3/13(日)

詳細は、「首里城復興イベントホームページ」をご覧ください。

<https://shurijo-event.jp>

首里城復興イベント



12 令和首里城復興イベント実行委員会の設立について

- 沖縄県では、平成復元時にも行われた故事である「木曳式(こびきしき)」に倣い、令和首里城復興イベントを実施します。
- 県産材等を活用する観点から関係自治体や団体と連携して、木曳パレード及び木遣行列などのイベントを令和4年秋に実施するため、実行委員会を設立し、第1回実行委員会を開催しました。



首里城復興基本方針

正殿等の早期復元と復元過程の公開

イベントを実施することで首里城復元を段階的に公開し、復興への継続的な関心につなげる

首里城復興基本計画

復興基本計画の着実な推進のために目指す姿

木曳式等復元の各段階における重要行催事の機会を中心に、多くの人々が関われる各種イベントを実施すること

令和首里城復興イベントの実施

平成時にも行われたように、沖縄県民をはじめとする首里城復元・復興を願う様々な主体に向けて、復元工事の始まりを記念するとともに完成を祈願し、往時の故事（木遣）に倣いつつ、県産材を活用する自治体や関係団体と連携して令和首里城復興イベントを実施する

「木曳式(こびきしき)」

琉球王朝時代に首里城正殿等の造営や修復に使用する御材木を運ぶ際に行われた行事。平成時は木遣行列も含めた祭事の総称として使用していた。

「木遣(きやり)」

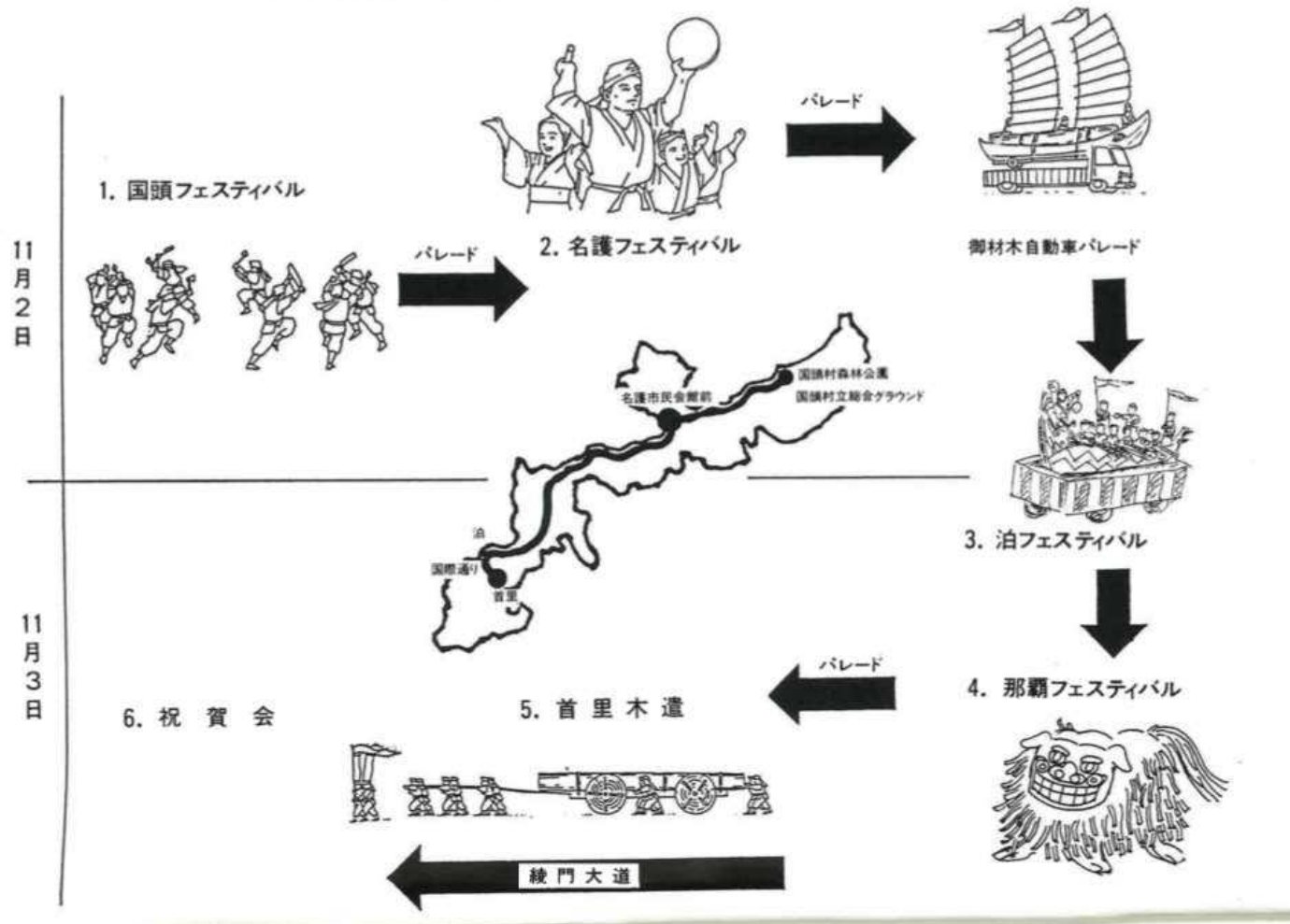
木を運ぶ（＝遣り渡す）という意味。神社造営の神木などの建築用木材を大勢で運ぶときに使われる。平成時は木曳式のメインイベントとして位置付けられていた。

復帰50周年事業 として実施予定

首里城に象徴される歴史文化への理解を深め、県内外へ周知することで、これまでの沖縄の発展のあゆみや今後の展望についても発信する。

平成の木曳式について

首里城木曳式イメージ図



木曳式(パレード)の様子



木遣行列の様子

首里城復元期成会を筆頭に実行委員会形式で実施。沖縄総合事務局長及び沖縄県知事は顧問として参加。財源は負担金、協賛金で賄われていた。

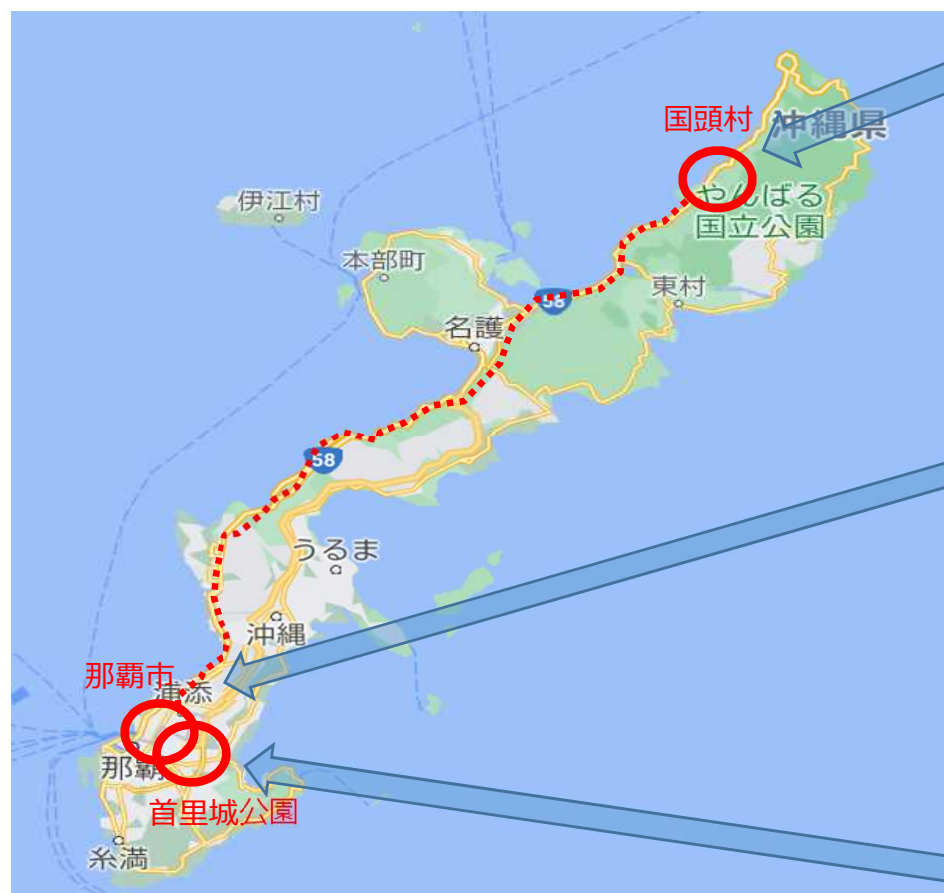
詳細は、「令和首里城復興イベント実行委員会ページ」をご覧ください。

<https://www.pref.okinawa.jp/site/doboku/koen/hukkoubento/jikkouinikai.html>

令和首里城復興イベント実行委員会



令和首里城復興イベントの実施イメージ（想定ルート）



【起点】
国頭村

ステージ出発セレモニー

日時：令和4年〇月〇日(〇)10:00～11:00

場所：国頭村 道の駅ゆいゆい国頭

【中継点】
那覇市

他イベントと合同パレード

日時：令和4年〇月〇日(〇)14:00～15:00

場所：那覇市国際通り

【終点】
首里城公園

公園内で木遣行列イベント

日時：令和4年〇月〇日(〇)15:30～16:30

場所：首里城公園内

首里城御材木自動車パレード



日時：令和4年〇月〇日(〇)
11:00～16:30

想定ルート：
国頭村～那覇市(国際通り～
首里城公園)

東のアザナより正殿方向を見る

